

伝統のひなまつりを風情ある旧家が見事に演出 壽丸屋敷で「白石城下わらべまつり」を開催

3月7日、壽丸屋敷で5回目となる「白石城下わらべまつり」が開催され、市内外から参加した親子連れなど約60人が、童謡や民話などでひなまつりを満喫しました。

この催しは、白石まちづくり(株)が主催したものです。潮風の会による篠笛演奏や、腹話術で語られる民話、女性アンサンブルグループ「フェリーチェ」による美しい歌声などが披露されました。別の部屋では折り紙コーナーも設けられるなど、子どもたちが充実して楽しく過ごせる内容。会場内に飾られた多数のひな人形が、子どもたちの笑顔を優しく見守っていました。



▲小片琴子さんは「片平観平」のお話を腹話術で楽しく紹介

元気な声で「火の用心！」 越河保育園の園児たちが地域を巡回



▲園児たちの元気な声に沿道からは声援が送られました

3月4日、越河保育園の園児23人が越河地区を巡回して「火の用心」を呼び掛けました。この活動は春の火災予防運動にちなんで、地元の消防団や婦人防火クラブの皆さんと一緒に毎年行っています。

関東香代子園長が「皆さんが火事に遭わないように元気な声で伝えましょう」とあいさつ。園児たちも「火遊びはしません。お父さんやお母さんの教えを守ります」と、防火の誓いを行い出発しました。おそろいの法被を身にまとった園児たちは、拍子木を打ち鳴らしながら、元気な声で「火の用心」と呼び掛けていました。

親子で楽しく、元気いっぱい踊ったよ! あきらちゃん&ラーメンちゃんふれあいコンサート

3月10日、中央公民館で「あきらちゃん&ラーメンちゃん子育てふれあい「ほっぷんちょ」コンサート」を開催しました。「ほっぷんちょ」は、子育てに関する情報や学びの場を提供しながら、子育て中の皆さんを応援する広場です。「家庭の日」の制定記念事業として開催した今回のコンサートには、約100人の親子連れなどが参加しました。あきらちゃんとラーメンちゃんが繰り出す楽しい歌やお話、東保育園の園児11人がお手本で踊った「白石うーめん体操」など、元気いっぱいの歌や踊りで会場は終始笑顔であふれていました。



▲東保育園の園児が白石うーめん体操を元気に披露

おばあちゃん、100歳おめでとう! 高橋たきさんに祝詞と松竹梅敬老祝金



▲ご家族や施設の皆さんでお祝い(3月12日八宮荘にて)

3月14日に満100歳を迎えた高橋たきさんを風間市長が訪ね、祝詞と松竹梅敬老祝金を贈りご長寿を祝福しました。現在は八宮荘に入所中のたきさん。小さいころは走るのが速く、白石の代表として大会に出場しました。また、水泳も得意で、おぼれた子どもを助けて田んぼをいただいたという逸話もあるそうです。

「78歳で海外旅行するほど元気で厳しく育てられましたが、それが今に役立っています」と話してくれたのは、娘の荒井幸江さん。この日はひ孫の来未ちゃんも訪れ、「100歳おめでとう」と花束を手渡していました。

一糸乱れぬ勇壮優美な舞を披露! 沖縄の伝統芸能「エイサー発表会」

2月16日、白石女子高等学校(須藤亨校長)の体育館で、沖縄の伝統芸能「エイサー」の発表会が開催されました。

2年生207人の必修体育のダンスとして、平成20年度までの修学旅行先であった沖縄のエイサーの舞を採用。昨年11月からクラスごとに練習を重ねてきました。

また1月には、創作エイサーの指導者である上里好博さんを招き講習会も行いました。発表会では、音楽を選択科目としている28人が伴奏を担当。沖縄の伝統楽器「三線」と歌を演奏し、勇壮優美な舞を披露しました。



▲発表会のトップをきって、2年5組がエイサーを披露!

種目を越えて 楽しく仲間づくり! 第19回白石市スポーツ少年団本部交流大会

2月21日、ホワイトキューブで、第19回白石市スポーツ少年団交流大会が開催されました。

今年で19回目となる今年の交流大会には、野球や空手、柔道など10のスポーツ少年団から約200人の子どもたちが参加。「ドッチビー」と「玉入れ」では、参加した子どもたちが8つのチームに分かれ、違うスポーツをする子どもたちが力を合わせて競い合っていました。続いて行われた「大縄跳び」と「ぞうきん掛けリレー」は、少年団対抗で行われ、3チームが同点で2位となり、順位決定戦を行うほどの大接戦の大会となりました。



▲大縄跳びでは、2分間飛びっぱなしでもうへトヘト!

サッカー好きな子どもたちが大集合! ベガルタ仙台サッカー教室



▲ベガルタ仙台のコーチとミニゲームをする子どもたち

ホワイトキューブで2月21日、第17回白石市生涯学習フェスティバル実行委員会が主催するベガルタ仙台サッカー教室が開催されました。

約50人が参加した今年の教室では、ボールコントロールを中心とした練習を行った後、高学年と低・中学年の2つのグループに分かれ、5人を1チームとしてミニゲームを行いました。低・中学年のグループでは、ベガルタ仙台のコーチも子どもたちと一緒にプレー。楽しく、分かりやすいサッカーの指導に、子どもたちは時間のたつのも忘れて、ボールを追いかけていました。

感謝の気持ちを受け継いで 東中学校の3年生が出身小学校などで奉仕作業



▲子どもたちに囲まれながら作業をする東中の生徒たち

東中学校(濱須保雄校長)の3年生124人が、卒業を間近に控えた2月18日、出身小学校や幼稚園、保育園を訪れ、地域への感謝を込めた奉仕作業を行いました。

今年で3年目となるこの作業。白一小を訪れた26人は、体育館の清掃や廊下の窓ふきを行いました。授業終了のチャイムが鳴り、教室から出てきた児童たちは、お兄ちゃん・お姉ちゃんの様子を不思議そうに見つめていました。作業をした北口いずみさん、村形真由香さん、高橋舞子さんは、「私たちの感謝の気持ちを、今の児童たちも引き継いでくれたら」と笑顔で話してくれました。